

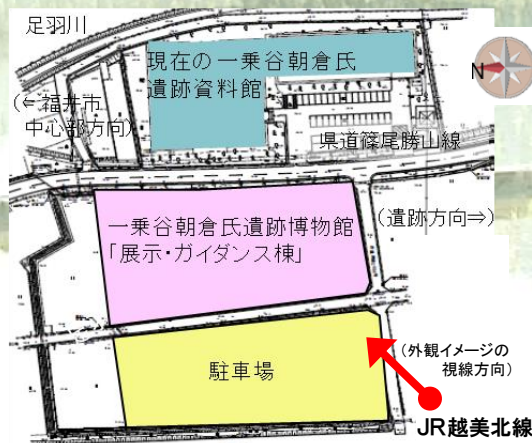
一乗谷朝倉氏遺跡博物館(仮称)の概要 (令和4年10月開館予定)

○新館「展示・ガイダンス棟」

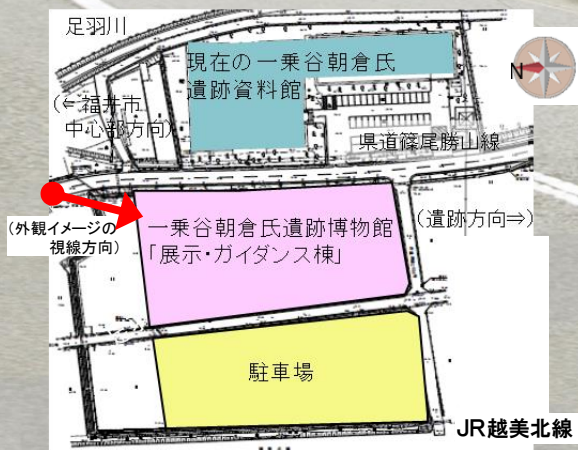
構造 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造

面積 敷地約10,000㎡(駐車場を含む)、延床約5,200㎡

※新博物館は、「展示・ガイダンス棟」(新設)、「調査・研究、収蔵棟」(現資料館を改修し、活用)の2棟で構成

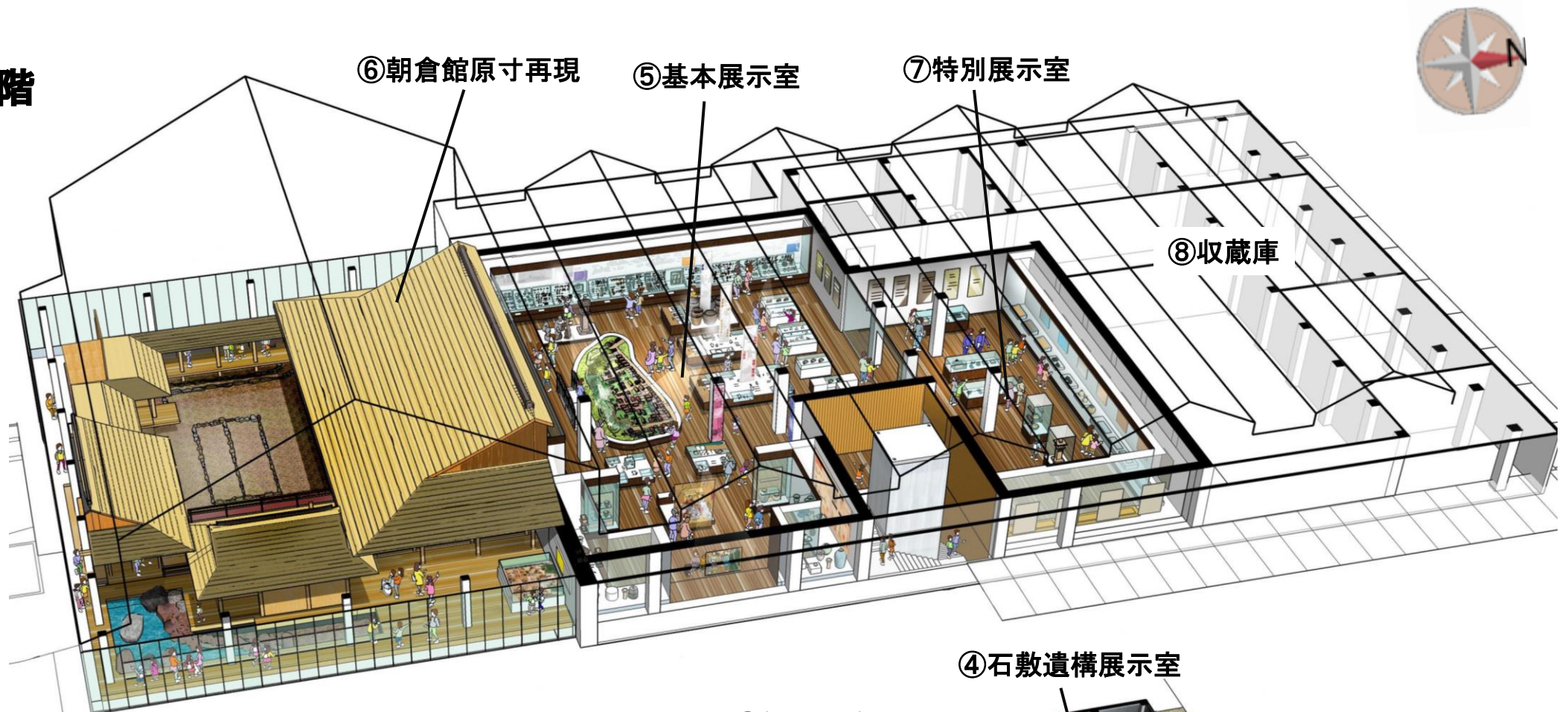


新館「展示・ガイダンス棟」 外観イメージ

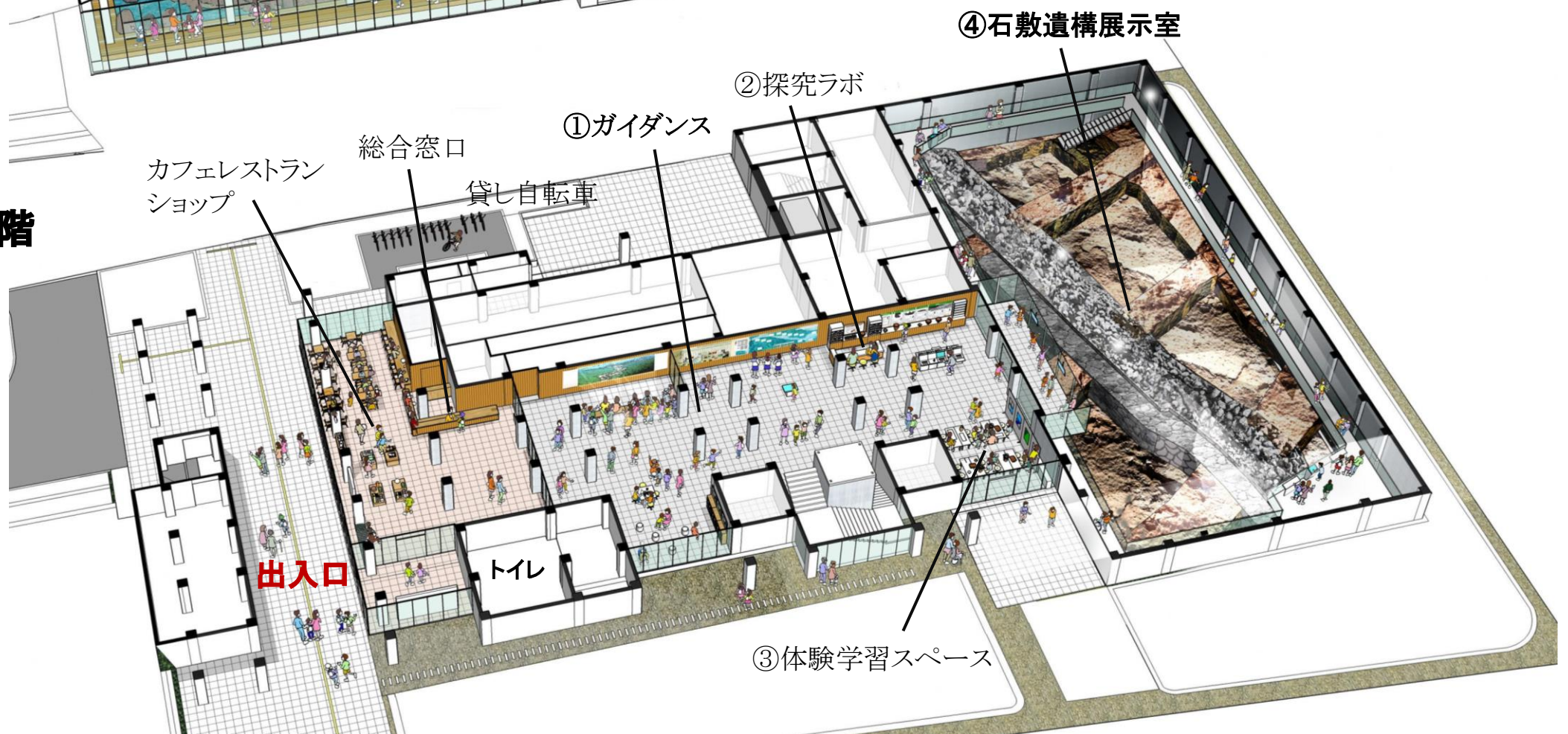


新館「展示・ガイダンス棟」館内イメージ

2階



1階



ガイダンス

一乗谷朝倉氏の歴史や遺跡の意義、見どころなど、遺跡周遊に必要な情報をわかりやすく提供

①ガイダンス ガイダンス映像、インフォメーションマップ(遺跡の見どころやモデルコース)



体験しながら学べるコーナーも整備

②探究ラボ 学芸員の仕事紹介・体験コーナー(出土物の分析体験等)



③体験学習スペース 子ども向け体験講座



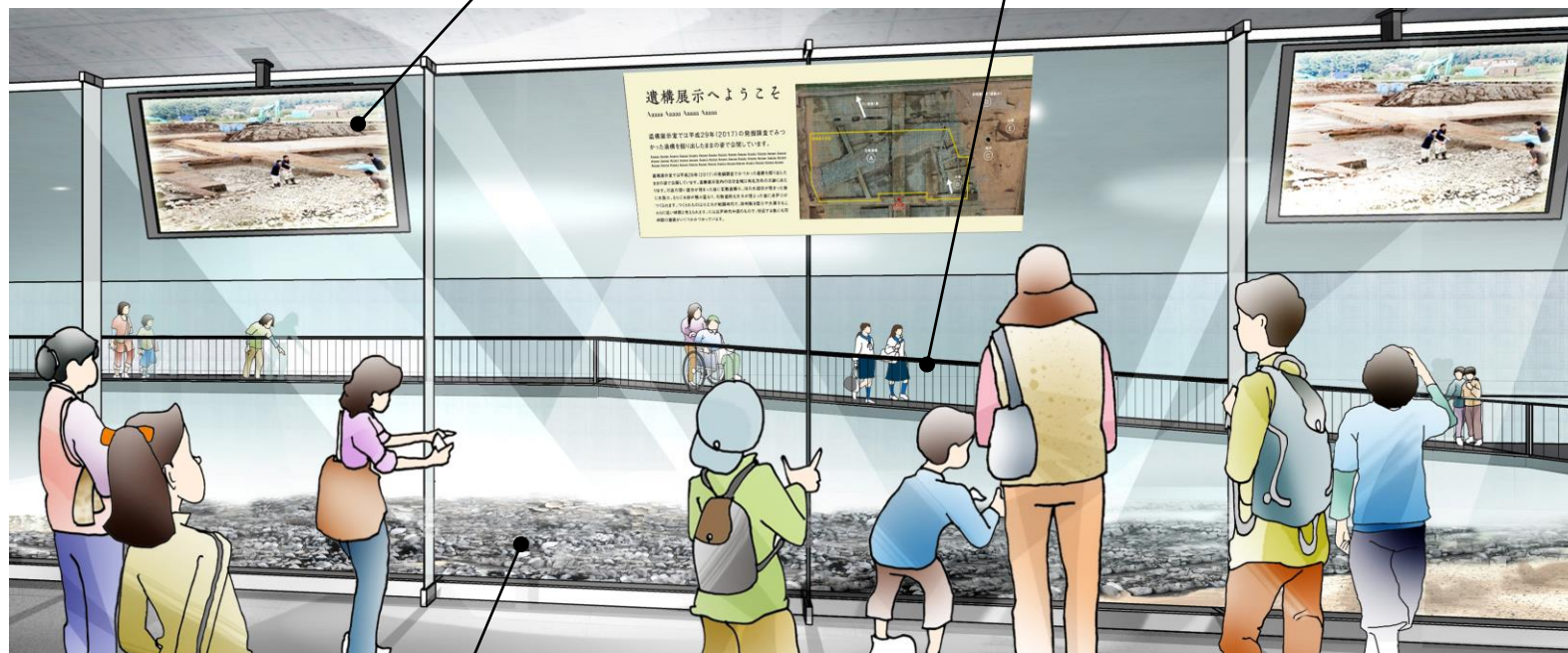
石敷遺構展示室

大規模な石敷遺構をそのまま露出展示

④石敷遺構展示室

遺構についての解説映像

見学通路



石敷遺構

見学通路

映像で当時の様子を紹介

発掘・保存についての解説



【石敷遺構】

- ・建設予定地の発掘調査で発見（H29年）
- ・大きな商業地・流通拠点であった川湊「一乗の入江」の一角にあたり、道路あるいは船着場・荷揚場に使われたと考えられる遺構
- ・専門家から「戦国期の港湾施設を示す遺構として非常に重要」との評価を得ており、館内において、現状のまま露出展示

巨大ジオラマ(基本展示室)

遺跡内の平面復原地区を巨大ジオラマで再現。この地区で実際に使用された生活用具などの出土品を展示

⑤基本展示室



【主要な展示品】



櫛



鏡

医者の子の出土資料



食膳具(漆器)



様々な形の下駄



薬研



調理器具



越前焼大甕



【巨大ジオラマ】

- 遺跡現地の平面復原地区※の一部(250m×130m)を、発掘調査結果に基づき1/30スケールで再現

※武家屋敷や寺院、町屋が建ち並び、様々な職人の活動が確認された地区



城下町に暮らす人々の人形

朝倉館原寸再現

戦国大名の居館を原寸再現。朝倉義景と同じ視点で観賞や行事を体験

⑥朝倉館原寸再現



十二間(会所)から中庭を見た様子



唐門

【再現範囲】

- ・朝倉館の会所、中庭、小座敷、池庭等の一部を原寸再現
(最大の部屋となる十二間(会所)は24畳、小座敷は8畳)
- ・これらの空間で行われた文化的行事を来館者が疑似体験することにより、戦国大名の価値観や教養、朝倉氏が育んだ文化水準の高さを直接的に理解

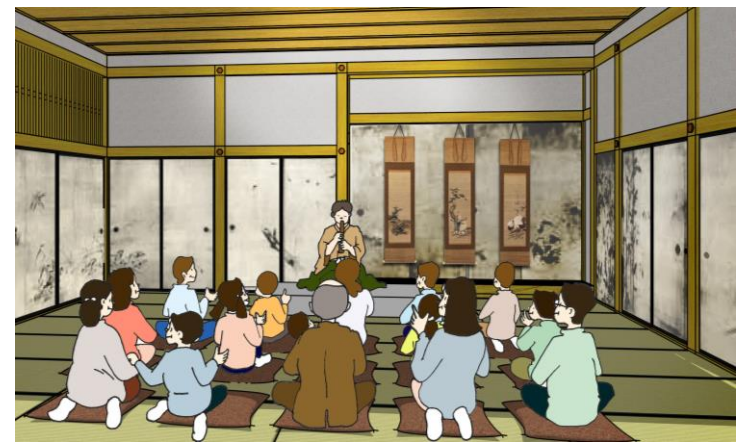
小座敷からの池庭鑑賞



十二間(会所)内



【十二間(会所)での体験内容(例)】
一節切の演奏会



朝倉館障壁画再現プロジェクト

嵯峨美術大学（京都市）の協力を得て、戦国大名朝倉氏のお抱え絵師であった曾我派によって500年以上前に描かれた大徳寺真珠庵蔵「四季花鳥図」を復元模写し、朝倉館原寸再現の障壁画として新たに展示

曾我派の障壁画としては唯一伝世する本作品を当時と同じ目線で鑑賞できる環境に整備することで、かつて朝倉氏が育んだ文化を総合的に表現するとともに、復元模写を通じて、水墨画の伝統技術を後世へ継承



嵯峨美術大学での制作風景



大徳寺真珠庵での現地確認の様子

〔参考〕 建築工事・展示工事の進捗状況（令和3年9月時点）

令和4年10月の開館に向けて、概ね予定どおり進行中

